

第621回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1. 八幡城陽線 上津屋橋（流れ橋）復旧事業 京都府久御山町～八幡市

八幡城陽線上津屋橋は、京都府南部を流れる一級河川木津川に架けられた木造橋で、梅雨や台風等の豪雨により川の水位が上がると、橋板や橋桁が流れ出す独特の構造から、通称「流れ橋」と呼ばれています。本橋は、昨年8月の台風11号により被災・流出しましたが、近年、度々被災・流出することから、復旧に先立ち、上津屋橋（流れ橋）あり方検討委員会を設置し、今後のあり方や復旧方法について、幅広い意見を聴取しながら検討を行いました。事業効果としては、従来の景観を守りつつ、上津屋橋（流れ橋）を流れにくく災害に強い構造とし、災害による通行止めの頻度を減少させ利便性を向上します。



同委員会で検討した被災・流出頻度を改善する構造で復旧工事を行ない、来年3月の供用開始を目指し、事業を実施しています。

（視察キーワード：災害復旧、橋梁構造の変更、景観への配慮等）

2. 天ヶ瀬ダム再開発事業

..... 宇治市槇島町

天ヶ瀬ダムは下流宇治川のはん濫を防ぐとともに、淀川本川のピーク時には、更に放流量を調節して洪水の低減を図ります。また、隣接する天ヶ瀬発電所や天ヶ瀬ダム貯水池を下部調節池として、喜撰山発電所において揚水発電を行うとともに、宇治市、城陽市、八幡市、久御山町に上水を供給しています。しかし、現状の天ヶ瀬ダムは昭和46年に改訂した治水計画に対して、放流能力が小さいため、洪水の初期段階から洪水を貯留し始めることとなり、洪水調節容量が不足し、十分に効果を発揮できません。また、上流の琵琶湖においても、下流被害防止のために貯留して上昇した水位を速やかに低下させることができない状況です。



そこで再開発事業として既設ダムの左岸側にトンネル式放流設備を新設し、安全に放流能力を上げることにより、貯水池を効率的に運用し、宇治川や淀川本川のはん濫を防ぐとともに、上流琵琶湖沿岸地域で発生している浸水被害に対しても、琵琶湖水位を速やかに低下させ被害の軽減を図ります。また、発電、上水の安定的な供給といった利水機能も増強します。

（視察キーワード：治水・利水、災害対策等）

3. 梅小路公園の再整備事業（平成26年度全建賞）

..... 京都市下京区

平成10年に開園した梅小路公園は面積13.7haの総合公園で、京都駅の西側約1kmに位置しています。平成20年度に、民間事業者から水族館（平成24年3月開業）及び鉄道博物館（平成28年春開業予定）の新設提案を受け、公園施設の整備を行うとともに、公園に隣接する土地を借り受け、拡張再整備を実施しました。再整備に際しては、京都市が保管していた市電車両の有効活用と民間活力の導入による賑わい創出を重要なテーマとし、平成26年3月に2つの新広場『すぎくゆめ広場』と『市電ひろば』を開園しました。すぎくゆめ広場には、大型遊具の他、広場を眺めながら、軽食を楽しめるカフェを整備し、日差しを気にすることなく、子どもと過ごせる広場は、多くの母親から絶大な支持を得ています。市電広場は、かつて京都市内を走行していた市電車両をカフェや物販の市電店舗として活用し、大正、昭和の昔懐かしい時代や京都の街の発展に貢献した市電の役割を感じることができる広場として整備しました。新広場の整備や民間活力を導入したカフェ・市電店舗の管理運営により賑わいを創出し、京都市中心部という立地条件を井活かした賑わいの場の形成や地域観光、交流の拠点を創出し、町の中核的存在として寄与している点が評価され、全建賞を受賞しました。



（視察キーワード：官民連携、地域活性、ストック効果、全建賞受賞事業等）